

帯状疱疹ワクチンについて

帯状疱疹とは

体の片側の一部にピリピリとした痛みが現れ、その部分に赤い発疹が出現する病気です。

子供の頃に水ぼうそう（水痘）にかかると、治った後もウイルスが体内に潜伏し、免疫力が落ちたことをきっかけに再活性化して発症します。

日本人成人の 90%以上は、このウイルスが体内に潜伏していて、特に 50 歳代から発症しやすくなり、80 歳までに 3 人に 1 人が発症すると言われています。

帯状疱疹が頭部や顔面に出ると、目や耳の神経が障害され、めまい・耳鳴りといった合併症を起こします。重症化すると失明や難聴、顔面神経麻痺による顔のゆがみなど、重い後遺症が残る危険があります。

帯状疱疹後神経痛 (PHN) とは

また帯状疱疹が治った後も、長期に痛みが残ることがあり、帯状疱疹後神経痛 (PHN) と呼ばれています。これは帯状疱疹による神経の炎症が原因で、神経を傷つけてしまった結果、神経痛が残ってしまった状態です。

強い痛みのために、仕事に集中できない・眠れないなど、日常生活に支障をきたすことがあります。痛みに悩まされ、長期にわたり服薬等の治療が必要となる場合もあります。

50 歳以上で帯状疱疹を発症した人のうち、約 2 割が帯状疱疹後神経痛 (PHN) になると言われています。

帯状疱疹ワクチンの種類

水ぼうそうにかかったことのある人の帯状疱疹予防として、2 種類のワクチンがあります。

- ・水痘ワクチン「ビケン」
- ・帯状疱疹ワクチン「シングリックス」

どちらも 50 歳以上の人には接種が可能です（任意接種となります）。

またシングリックスは、帯状疱疹に罹患するリスクが高いと考えられる 18 歳以上の人们にも接種が可能となりました（2023 年 6 月末より）。

	水痘ワクチン 「ビケン」	帯状疱疹ワクチン 「シングリックス」
ワクチンの種類	生ワクチン (ウイルス毒性を弱めたワクチンのため、わずかだが病原性あり)	不活化ワクチン (ウイルスの一部だけを利用したワクチンのため、感染性なし)
接種回数	1回	2回 (2ヶ月後に2回目。 遅くとも6ヶ月後までに接種)
予防効果	50～60%	50歳以上 約97% 70歳以上 約90%
効果持続期間	5年程度 (必要に応じて追加接種を検討)	10年以上 (2022年10月時点では追加接種は必要ないと想定している)
副作用	接種部位の痛み、腫れ、発赤 (3日～1週間で消失)	接種部位の痛み、腫れ、発赤、発熱、筋肉痛、全身倦怠感 (3日～1週間で消失)
料金	8,000円（税込）	23,000円（税込） / 回
長所	<ul style="list-style-type: none"> ・1回で済む ・値段が安い 	<ul style="list-style-type: none"> ・免疫が低下している人にも接種できる ・予防効果が高い ・持続期間が長い
短所	<ul style="list-style-type: none"> ・免疫が低下している人には接種できない ・持続期間が短い 	<ul style="list-style-type: none"> ・2回の接種が必要 ・値段が高い